

パネルメッセージをお寄せいただいた方々

- ・北海道大学 総長 寶金 清博 様
- ・高山市長 田中 明 様
- ・中川町長 石垣 寿聰 様
- ・山都町長 坂本 靖也 様
- ・大崎市長 伊藤 康志 様
- ・三菱総合研究所 理事長 小宮山 宏 様
- ・広野町長 遠藤 智 様
- ・経済産業省 イノベーション・環境局長
- ・笛吹市長 山下 政樹 様
- ・株式会社東京チェンソーズ 代表取締役
青木 亮輔 様
- ・林野庁 森林整備部長 長崎屋 圭太 様
- ・参議院議員 吉川 ゆうみ 様
- ・長らくご支援くださっている個人里親・N様
- ・菊川 人吾 様

Present Tree 20周年 お祝いのメッセージ



〈Present Tree in 中川〉
北海道 中川町長
石垣 寿聡

プレゼントツリープロジェクト 20周年、誠にありがとうございます。
この節目を迎えられたことは、皆様のだよめぬ努力と情熱の賜物であり、環境保護と持続可能な社会の実現に向けた貢献の証です。

2003年9月の設立以来、皆様はさまざまな困難を乗り越えながら、社会に確かな変化をもたらしてこられました。環境問題への関心を高め、多くの人々を巻き込んできたその活動は、非常に意義深いものです。

この20年間で、環境への意識は大きく変わりました。かつては限られた人々の関心事だった環境問題が、今では企業や行政、市民が取り組むべき重要課題となっています。その変化の背景には、環境リレーションズ研究所のような団体の尽力があることは間違いありません。皆様の活動が企業と社会をつなぐ架け橋となり、持続可能な未来への道を切り拓いてきたことに、心より敬意を表します。

特に、環境教育の推進や企業との協働、地域社会との連携など、多岐にわたる取り組みにより、環境リレーションズ研究所は多くの成果を上げてこられました。これらの活動は、単なる環境保護にとどまらず、社会全体の意識改革を促し、より良い未来の礎となっています。

中川町においても、森林再生と地域振興の同時実現を目指すプレゼントツリープロジェクトにより、都市部の人々が樹の里親となる取り組みが進められました。プレゼントツリーによる「なかがわ植樹祭」の開催も、その一環として実現しました。この貴重な機会をいただいたことに、深く感謝申し上げます。

20周年という節目は、過去を振り返るとともに、新たな未来へ向けたスタートでもあります。これまでの経験と実績を活かし、さらなる飛躍を遂げられることを期待しています。環境問題は依然として深刻ですが、皆様のような情熱と行動力を持つ方々がいる限り、より良い未来を築くことは可能です。

今後も、環境リレーションズ研究所の皆様が持続可能な社会の実現に向けて、さらなる発展を遂げられることを心より願っております。改めまして、20周年おめでとうございます。そして、これからの活動にも大いなる成功が訪れることを祈念いたします。



〈Present Tree in 北海道〉
北海道大学 総長
寶金 清博

このたびは Present Tree プロジェクトが 20周年を迎えられたとのこと、心よりお祝いを申し上げます。

北海道大学は、1876年に設置された札幌農学校に起源を持ち、とくにフィールド研究において世界最先端をリードするとともに、近年の SDGs にもつながる、持続可能性に基づいた地域課題の解決を創成期から追求してきました。

現在の中期的ビジョン（HU VISION 2030）においても大学発のイノベーションを生み出すために、科学技術における教育・研究の卓越性 "Excellence" と、教育・研究を社会に広げ地域課題を解決する社会展開力 "Extension" の双方を重視しています。その中で、世界最大級の面積を有する北大研究林においては、豊かで多様な自然環境を活かして、二酸化炭素の吸収や生物多様性の保全など森林の多面的な役割についての各種の先端的な研究を進めるとともに、それらの役割と調和した森林の育成・木材等の資源利用を実践的に行なっています。

北大研究林における Present Tree 「いのち豊かな混交林の再生」は 2006 年にはじまり、これまでに総計 2 万本を超える苗木が植栽されてきたと聞いております。森林に限らず、現代の自然資源の利用においては、育成のスピードや低コスト化が強く求められがちですが、一方で、短期的な効率性だけではなく、環境の保全や多様性、気候変動の影響を考慮した資源管理もきわめて重要です。北大研究林の森づくりでは、単に「成長がよい」ことだけではなく、北海道の原生的な森林の特徴を再生することも重視し、そのために、植栽した樹種だけではなく、自然に生える多様な種類の木が混じりあって育つ「混交林」の育成を目標としてきました。

Present Tree プロジェクトが目指す「森林再生と地域の振興」は、北大が進めるそうした新しい森づくりの "Extension" と合致する、私たちにとっても欠かせない存在になっています。この間の里親の皆様のご理解とご支援、事務局の皆様のご尽力に対してあらためて厚くお礼を申し上げます。今後もこの取り組みを息長く継続していきたいと、どうぞよろしく願いいたします。

Present Tree 20周年 お祝いのメッセージ



〈Present Tree in ひろの〉
福島県 広野町長
遠藤 智

プレゼントツリープロジェクト 20周年、誠におめでとうございます。

この度の記念すべき節目を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。また、長年にわたり環境保全と地域再生の両立を目指し、全国各地で活動を展開されてきたご功績に、深く敬意を表します。広野町におきましては、2011年3月11日の東日本大震災並びに原子力災害からの復興への歩みの中で、環境リレーションズ研究所様が取り組まれてきた「人と森をつなぐ」プレゼントツリーの理念に感銘を受け、福島復興・創生に向けて、震災10年目の3.11、広野町「被災の祈り」の際には、東京都知事 小池百合子様よりメッセージを賜り、多くの皆様から多くの出会いや温かい励まし、力強い活力をいただきました。

広野町は2011年3月の東日本大震災並びに原子力災害から14年の時を刻み、全町避難を余儀なくされてから、町民一人ひとりが納得して帰還する“Early Return to Happy Return”「幸せな帰町」、尊厳ある帰還・移住を捉え、先人がたゆまぬ努力によって築いてこられた美しいふる里の伝統・文化・風土に愛情と誇りの念を刻み、震災による未曾有の複合災害を乗り越えてきた町として、自然の恵みや緑豊かな美しい里山の魅力を全国に発信するとともに、再生可能エネルギーの推進、教育環境の充実など、人と自然が共に生きる循環型の地域づくりを目指しております。そうした中において、企業や個人の皆様が里親となって森を育てていく御プレゼントツリーのご活動は、当町が進めるふる里復興・創生の歩みと重なり、地域に新たな関係人口を生み、希望を育む非常に意義深い力強い取り組みであると感銘と感動を受け止めております。

全国60カ所です実を結び、約42万本もの樹に命を吹き込んできたという御取り組みは、この度の20年に渡る皆様のご尽力により、気候変動や人口減少といった困難の時代にあっても、志ある人々が手を携えれば未来は切り拓けることを私たちはご教示を賜るものであります。

広野町は今後も、地域と都市をつなぐ架け橋となる御プロジェクトとの連携をより一層図りながら、福島復興を必ず成し遂げる決意の下、原子力災害からの新たな時代の防災に強い“安心・安全な共生のまちづくり”に向け、持続可能で美しい新たな未来創造を展望してまいります。

御プレゼントツリープロジェクトの更なるご発展と、全国の里親の皆様のご健勝、ご活躍を心よりご祈念申し上げ、メッセージとさせていただきます。



〈Present Tree in みやぎ大崎〉
宮城県 大崎市長
伊藤 康志

Present Tree の活動 20周年心よりお祝い申し上げます。

これまで、環境リレーションズ研究所の「プレゼントツリープロジェクト」の活動を通して企業里親の皆さまから数多くの苗木を提供いただき、大崎市における植樹イベントを継続いただいていることに心より感謝申し上げますとともに、この度、本プロジェクトが20周年を迎えましたこと、誠におめでとうございます。

本市での植樹イベントは、環境リレーションズ研究所と、森林所有者、大崎森林組合と大崎市の4者により、森林整備協定を結んでおり、平成26年から令和6年まで、コロナ過で止む無く休止した分を除き、9回実施しております。

また、大崎は世界農業遺産に認定されており、最上流部の水源の地、鬼首から河川を通じ、大崎耕土の水田に潤いをもたらしており、水源地を守るうえでも大切な活動となっております。また、大崎市は、令和4年5月に内閣府より「SDGs 未来都市」に選定されており、持続可能な田園都市「宝の都・大崎」の実現に向けて、世界農業遺産「大崎耕土」とSDGsの目標を連動させ、持続可能な地域づくりの実現を目指し各事業を推進しております。

現在、気候変動やエネルギー問題などこれまでにない地球規模の大きな課題が生まれております。森林は、木材供給の他、水源涵養、災害防止、地球温暖化防止など多面的な機能を有しており、SDGs 目標達成への貢献や、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを推進するうえでも、森づくりは大変重要となります。是非、今後も森林保全のため、NPO・森林ボランティア・市民の皆さんをはじめ多くの方々に関わっていただける森づくりを継続して進めていければと思っております。

Present Tree 20周年 お祝いのメッセージ



〈Present Tree in 東京〉
株式会社東京チェーンソーズ
代表取締役 青木 亮輔

プレゼントツリー 20周年おめでとうございます！

東京都内では初の開催ということで、檜原村で実施ができたことは大変意義深いことだったと思います。

プレゼントツリー支援者のイベントでは2022年と2023年の2回で約100名620本の植樹を行いました。また、企業の皆様も2年で8社約300名の方にお越しいただき、植樹やトレイル整備などに汗を流していただきました。

フィールドは、檜原村木材産業のシンボルでもある檜原森のおもちゃ美術館や檜原ファクトリー（じゃがいも焼酎工場）の建設用材を伐り出した伐採跡地でした。

地域住民の皆様からは、日陰対策として人工林を伐採して落葉広葉樹を植樹してほしいという願いがあり、以前より鈴木代表からお誘いいただいていたこともあり、プレゼントツリーでの植樹となりました。

植樹イベントの参加者は、はじめて檜原村にお越しになった方も多く、新しい関係人口の創出に繋がったことも成果でした。東京都内では、圧倒的に人口減少が続いている檜原村にとっては関係人口の創出は喫緊の課題でもあったため、とても大きな意味があったと思います。

今年も梅雨の時期になり、すでに下刈り作業が始まっております。植栽したフィールドの管理は檜原村からの委託で弊社が行なっておりますが、弱々しかった苗木も少しずつ成長してまいりました。この後もしっかりと手入れを続けて、地域住民に愛されるような気持ちの良い森に育てていきたいと思っております。

本日は、弊社の周年イベントと被ってしまい参加が叶いませんでしたが、木や森を愛する皆様が一堂に会える森と都市（まち）との交流会「Present Tree 20th サミット in TOKYO」のご盛會を檜原村の森の中より弊社スタッフ共々祈念いたしております。



〈Present Tree in 笛吹芦川〉
山梨県 笛吹市長
山下 政樹

プレゼントツリー 20周年記念イベント開催を、心よりお祝い申し上げます。

笛吹市は、平成22年4月に森林の保護及び育成を目的に森林整備協定を締結し、笛吹市御坂町を皮切りに笛吹市内11か所で、プレゼントツリー事業に興味を持たれた方々が里親となって記念樹を植え、山村地域と交流しながら森を育てていただいております。里親の皆様には、笛吹市の森林整備にご支援、ご協力をいただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

笛吹市は、総面積の約60%が森林に覆われており、自然環境に大変恵まれております。しかし、市内の森林を取り巻く状況は、担い手となる林業従事者の高齢化、なら枯れや鳥獣被害の拡大、所有や境界が不明な森林の存在など、依然として厳しい課題を抱えています。

豊かな森林は、土砂災害の防止や地球温暖化の緩和など、多面的な機能を有します。安心・安全な笛吹市の実現のため、将来にわたり地域あげての森林づくり・緑づくりの取り組みを進めて行くことが、私たちの役割だと考えております。

プレゼントツリー事業を行われている環境リレーションズ研究所様におかれましても、今後も関係機関と連携を深めながら、地域と共に、森の再生とその周辺地域の振興に向けて一層の御尽力を賜りますよう、お願い申し上げます。

このたびのプレゼントツリー 20周年記念イベントの開催は、環境リレーションズ研究所様の社会貢献について、多くの皆様に知っていただく機会となることでしょうか。

プレゼントツリー 20周年という節目を契機に、プレゼントツリー事業と環境リレーションズ研究所様がますます発展し、御活躍されることを祈念申し上げ、御祝いの言葉といたします。

Present Tree 20周年 お祝いのメッセージ



〈Present Tree in 飛騨高山〉
岐阜県 高山市長
田中 明

このたびプレゼントツリープロジェクトが20周年を迎えられ、Present Tree 20th サミット in TOKYO が開催されますこと、誠におめでとうございます。

高山市での取り組みは、2011年に最初の協定を、2024年に再度協定を結び、これまでに3万本を超える広葉樹の植樹を実施していただいています。

森林は、私たちの生命を育む環境にとって欠かせない存在です。

森が果たす役割は多岐にわたり、二酸化炭素の吸収、酸素の供給、水源の育みなど、

私たちの生活に計り知れない影響を与えています。

高山市は日本で一番広い市町村で、面積は東京都とほぼ同じです。標高の高い山や深い谷のある厳しい自然環境に囲まれており、土地のほとんどが山林で、森林率は約92%にも及びます。

また、古くは平城京や平安京の造営に携わった「飛騨の匠」と呼ばれる木工集団がいました。

その巧みな技術は近現代に継承され、近代には飛騨にある広葉樹の森林資源を生かす技術が確立されて木工家具産業が生まれ、現在も家具が盛んにつくられています。

このため、伐採跡地に広葉樹を植えて水源涵養機能や、将来育った木を飛騨の家具などに使っていくための森林整備を進めており、「Present Tree in 飛騨高山」プロジェクトを通じて、その取り組みを一緒に普及していただけることを願っています。

「Present Tree in 飛騨高山」の植栽地は、高山市清見町にあります。清見地域のほぼ中央を飛騨・美濃せせらぎ街道が南北に縦断し、春の新緑、夏の青々とした緑、秋の紅葉、冬の落葉した雪景色と、四季折々の自然を満喫することができます。

今後も、プレゼントツリープロジェクトをとおして都市部の皆様に飛騨高山の森林整備へご参加いただき、単なる植林活動にとどまらず、都市と自然の絆を深め、地域社会と都市部住民との協力の象徴となり、皆様が植えた一本一本が、次の世代に豊かな自然環境をつなぐ大切な一歩となることを期待しています。

最後に、20周年を迎えられたプレゼントツリープロジェクトご関係者の皆様、このプロジェクトを支援・協力してくださる皆様に、心からの感謝の意を表し、また、プロジェクトの今後のますますのご発展を期待しまして、お祝いのあいさつとさせていただきます。



〈Present Tree in くまもと山都〉
熊本県 山都町長
坂本 靖也

Present Tree 20th サミット in TOKYO の開催、誠におめでとうございます。

この度、環境リレーションズ研究所のプレゼントツリープロジェクトが20周年という大きな節目を迎えられますことを心よりお祝い申し上げます。

熊本県山都町は、九州の真ん中に位置し、西日本最大級のブナ原生林を有する九州脊梁山脈を有しています。町の総面積の約7割が森林で、これらの豊富な森林資源を活用しながら、林業・中山間地域の活性化につなげていくことが、重要な課題となっています。このため、林業の成長産業化に向けた各種施策に取り組んでいます。この取り組みを持続的に展開していくためには、木材やシイタケ等の林産物の供給に加えて、土砂災害の防止、水源の涵養といった多面的な機能を有する町民・国民共有の財産である森林を、健全な姿で次の世代に引き継いでいくことが不可欠だと考えています。

山都町では、2020年に環境リレーションズ研究所、緑川森林組合の三者で森林整備協定を締結し、以来5か所でプレゼントツリーの植樹イベントを開催しました。300人を超える参加者の皆さんの熱意と行動力のおかげで、伐採後の植林未済地が大いに改善されました。

皆様の活動が我々の美しい自然環境の保護にどれほど寄与しているかは計り知れませんが、2023年には、生物多様性保全の取り組みが評価されて、第1・第3協定のエリアが、環境省から「自然共生サイト」の認定を受けています。さらに、これらの活動は、観光や交流人口の増加にも貢献しています。植樹イベントを通じて多くの方々が山都町を訪れ、その美しさや魅力を体験され、新たな関係性を築ききっかけとなっています。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

今後も、山都町におけるプレゼントツリープロジェクトのさらなる展開に期待しています。

里親の皆様には、植樹活動を通じて山都町に興味を持っていただき、これからも長く関係を築いていただけるよう願っています。我々もまた、このプロジェクト等を通じて持続可能な森づくり・町づくりに貢献していく所存です。

最後に、改めてプレゼントツリープロジェクト20周年を迎えられましたことをお祝い申し上げ、今後のますますのご発展を祈念いたします。そして、今後も皆様との強固な連携を深めながら、共に持続可能な未来を共に築いていきたいと思います。

Present Tree 20周年 お祝いのメッセージ



※2012年からご支援いただいています。

Present Tree 個人里親 Nさん

プレゼントツリー 20周年、おめでとうございます。

私とプレゼントツリーとの出会いは、もう10年以上前になりますが、家族の誕生日に何か特別な贈り物はないか…と探していて、インターネットで見つけたことでした。

ただ寄付をするだけでなく、植樹証明書にメッセージを添えて贈ることができるというのが良かったです。特別なプレゼントになる上に、森林再生のお手伝いができる、とても素敵なプレゼントに出会えた！と、それ以降家族やお友達に贈らせていただいています。

受け取った方も、この珍しくて素敵なプレゼントをととても喜んでくださいます。

2018年には、千葉県山武市の森へ母と息子と3人でお伺いしました。

高齢の母に贈った樹を見せてあげたい、という私の要望を、事務局の方が快く引き受けてくださったのです。自分が寄付した樹の成長を見ることができて、母も私も息子も、とても感動しました。それだけでなく、プレゼントツリー事務局の皆さんをはじめ森を管理して下さっている方にもお会いでき、皆さんの思いを感じられたことも強く印象に残っています。

以前に比べ、最近ではさらに環境問題への関心が高くなり、未来への不安も感じています。

この美しい日本の自然がいつまでも残っていてほしい。事務局の皆様も大変だと思いますが、美しい日本の自然を未来に残していくために、これからも頑張ってください。応援しています。



参議院議員 吉川 ゆうみ

プレゼントツリープロジェクト20周年、そして本サミットの開催、心よりお祝い申し上げます。全国各地の被災地や開発跡地に樹を植え、森林を再生し、地域を元気にしていくこの取り組みは、単なる環境保全にとどまらず、都市と地方、人と人をつなぐ力をもつ、極めて先進的なプロジェクトです。

この20年、多くの市民が森の“里親”となり、地域との交流を重ねながら、延べ42万本にも及ぶ苗木を通じ、まさに「共につくる未来」を育んできたことに、深く敬意を表します。

私はこれまで、農業・環境・サステナビリティ分野の政策立案及びその実務に携わり、環境認証や自然資本の価値、地域に根ざした資源循環の大切さを学んで参りました。

脱炭素社会の実現に向けて、国や自治体の政策だけでなく、一人ひとりの行動と、それを支える民間や市民の取り組みが欠かせません。森林が持つCO₂吸収源としての機能は、カーボンニュートラルの実現において極めて重要であり、プレゼントツリーの活動は、まさにその実践モデルです。

本サミットが、次の20年に向けた新たな連携と政策のヒントを生み出す場となることを願っています。私も参議院議員として、また一人の人間として、自然と共生する持続可能な社会の実現に向け、引き続き、全力を尽くしてまいります。

Present Tree 20周年 お祝いのメッセージ



経済産業省
イノベーション・環境局 局長
菊川 人吾

「Sustainability 持続可能性」を、まさに自ら体現されたのが、「環境リレーションズ研究所」だと思います。20周年誠にありがとうございます。これまでの活動に心から敬意と感謝を送りたいと思います。

20年以上前、私は経済産業省環境政策課で地球温暖化対策を担当する中の一人でした。ポジションも低く、担当の一人にしか過ぎませんでしたが、自分の裁量で使える予算を当時少しだけ持っていました。当時の私は、「どのようにしたら、国民一人一人が自らの意思で地球温暖化対策への貢献活動に取り組んでくれるのだろうか」と悩んでいました。ちょうどそうした悩みに、知り合いを通じてアプローチをくれたのが、代表の鈴木敦子さんです。今も昔も変わらぬ高い熱量を持つ鈴木さんは、当時の私の悩みに真摯に向き合ってくれました。「地球温暖化対策にマーケティング手法を取り入れてみませんか」という、今では普通になりましたが、当時は珍しいアイデアを披露してくれました。その頃、鈴木さんも私も残業続きの毎日でした。そうした2人が新しい取り組みを議論するのは、いつも夜遅く、虎ノ門にあったマーケティング会社の小さな会議室でした。「人々の心を満たす“ウォンツ”は、“ニーズ”とは違う」「“ウォンツ”を満たす環境政策を考えよう」、と喧々諤々の議論とインタビューリサーチを終電近くまでやっていたのを思い出します。そうして出来上がった“ウォンツ商品”が、今日まで20年続いた「プレゼントツリー」です。鈴木さんはじめ環境リレーションズの皆さまの尽力の賜物ですが、同時に、これは画期的な環境政策であることも強くお伝えしたいと思います。この Sustainable 持続可能な“ウォンツ商品”プレゼントツリーがこれからも発展し成長し続けていくことを祈っています。



林野庁
森林整備部長
長崎屋 圭太

Present Tree の活動 20周年心よりお祝い申し上げます。

20年の長きにわたり、全国各地で森林の整備保全活動を地道に続けてこられた皆様に心より敬意を表します。

我が国の森林は、高度経済成長期以降、森と地域とのつながりが切れ、森における人の営みが途絶えていき、不健康になっていきました。先人がせっかく植えた人工林の手入れは徐々に行き届かなくなるとともに、地域住民の営み—山菜やきのこ、薪や肥料としての落ち葉採取など—と密接に結びついていた里山林も放置されていきました。

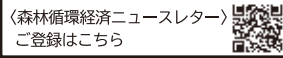
そして、こうした森林の放置の結果が、森林のナラ枯れ被害の拡大や、人と野生動物との軋轢の増加、といった現在の社会問題の原因の一因となっています。

こうした人との関りが薄れることで起こる生物多様性保全上の危機は、開発による危機に次ぐ『第2の危機』と定義づけられ、森林と人とのつながりを取り戻すことが急務となっています。近年、地球温暖化防止への貢献を目的に植林に取り組む企業は増えていますが、植林をきっかけに地域との交流を生み森林再生と地域振興の同時実現を目指していらっしゃる Present Tree の取組は、現代の課題の解決につながる先進的な活動とも言え、今後社会的にますます注目され、評価されていくのだろうと思っています。皆様の活動が今後ますます活発となり、さらに発展されることを心より祈念いたします。

Present Tree 20周年 お祝いのメッセージ



(株) 三菱総合研究所 理事長
プラチナ構想ネットワーク 会長
小宮山 宏



〈森林循環経済コースレター〉
ご登録はこちら

[21世紀に輝く森林循環経済] 国土の7割を占める日本の森林は、単なる風景ではありません。森は木材やエネルギーの供給源であり、気候を調え、水を蓄え、私たちの暮らしと文化を支える存在です。山岳信仰やお遍路に見るように、森は人の営みに深く結びついてきました。

歴史を振り返れば、古代文明の多くは緑豊かな川辺に生まれ、やがて森林を失い、砂漠と化しました。産業革命の時代、英国は鉄をつくるために森を伐り尽くしました。日本でも戦後の復興期に多くの森林が住宅資材として消費されました。森林は、文明の礎であると同時に、持続可能性の試金石でもあるのです。

今、行き過ぎた都市化や気候変動への対応が求められる中で、森林の価値はかつてなく高まっています。脱炭素社会の実現には、木材のように再生可能で炭素を固定できる素材の活用が不可欠です。そして何より、刺激の多い都市生活に疲れた人々が、森に癒しを求める時代でもあります。

こうした背景のもと、私たちは森林の持つ多様な価値を活かす「森林循環経済」に取り組まなければなりません。鍵となるのはゾーニングの考え方です。人工林は、伐って植えることで持続可能なバイオマス資源を生み出す場。天然林や里山は、間伐や下草刈りを通じて人と自然が共生する空間として再生できます。都市近郊では、エコツーリズムや自然教育、疲れた人々の癒しの場としての活用が期待されます。

2050年、私たちは地下資源から地上資源へ、すなわち再生可能エネルギーと都市鉱山とバイオマスへと転換せざるを得なくなります。木を育てることは、未来を育てること。伐採され放置された森林を、今こそ人の手で再生する時です。

プラチナ構想ネットワークでは、森林の持つ多様な価値を総合的に活用する21世紀型の産業を「森林循環経済」と呼び、「プラチナ森林産業イニシアティブ」を進めています。会員はさまざまな立場から参加していますが、根底には「森を愛する心」があります。

伐って植える循環をつくり、そっとしておくべき森は静かに守る。

愛情と理性をもって、森林を人と自然の共有資産として再生させていきましょう。

私もプレゼントツリー運動に参加させてください。

未来への贈り物として、一本の木を植えたいと思います。

「プレゼントツリー 20周年感謝の森」

へのご支援のお願い

〈詳細・お申込みはこちら〉



プレゼントツリーでは、20周年を記念して皆様からのご祝儀や祝花を辞退させていただく代わりに、湘南国際村めぐりの森に「プレゼントツリー感謝の森」を創設し、地球へのプレゼントとさせていただきます。

“大切な人へ、そして大切な地球に”
みなさまのご支援・ご協力、どうぞよろしくお申し上げます。

認定 NPO 法人環境リレーションズ研究所
Present Tree 事務局一同

大切な人へ、そして大切な地球へ。
Present Tree®